

個人投資家様向け会社説明資料



2024年6月13日

株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ)

代表取締役 社長執行役員Co-CEO & COO 勝 栄二郎

東京証券取引所 プライム市場 (証券コード：3774)

1. IIJとは
2. IIJグループの強み
3. FY23業績総括・前中期計画（FY21～FY23）の振り返り
4. 新中期計画（FY24～FY26）及び中長期ビジョンの策定
5. 株主還元について

- FY23（2023年度）= 2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）。他同様
- +%、YoY = 前年同期比
- 当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示
- FY22についてはIAS第12号「法人所得税」遡及適用後の数値を記載
- 略語の説明：NWはネットワーク、SIはシステムインテグレーションを指す

1. IIJとは

1-1. 会社概要・経営理念

1-2. 事業内容

1-3. 事業トピックス

(モバイル・セキュリティ・クラウド・データセンター・国際事業の進展・大型案件の獲得増加)

1-1. 会社概要・経営理念

- ◆ 日本初の本格的商用ISP^(※1)として日本のインターネット網を創設
- ◆ 大企業・官公庁を中心に自社開発の月額ネットワークサービスとSI^(※2)を併せ提供

経営理念



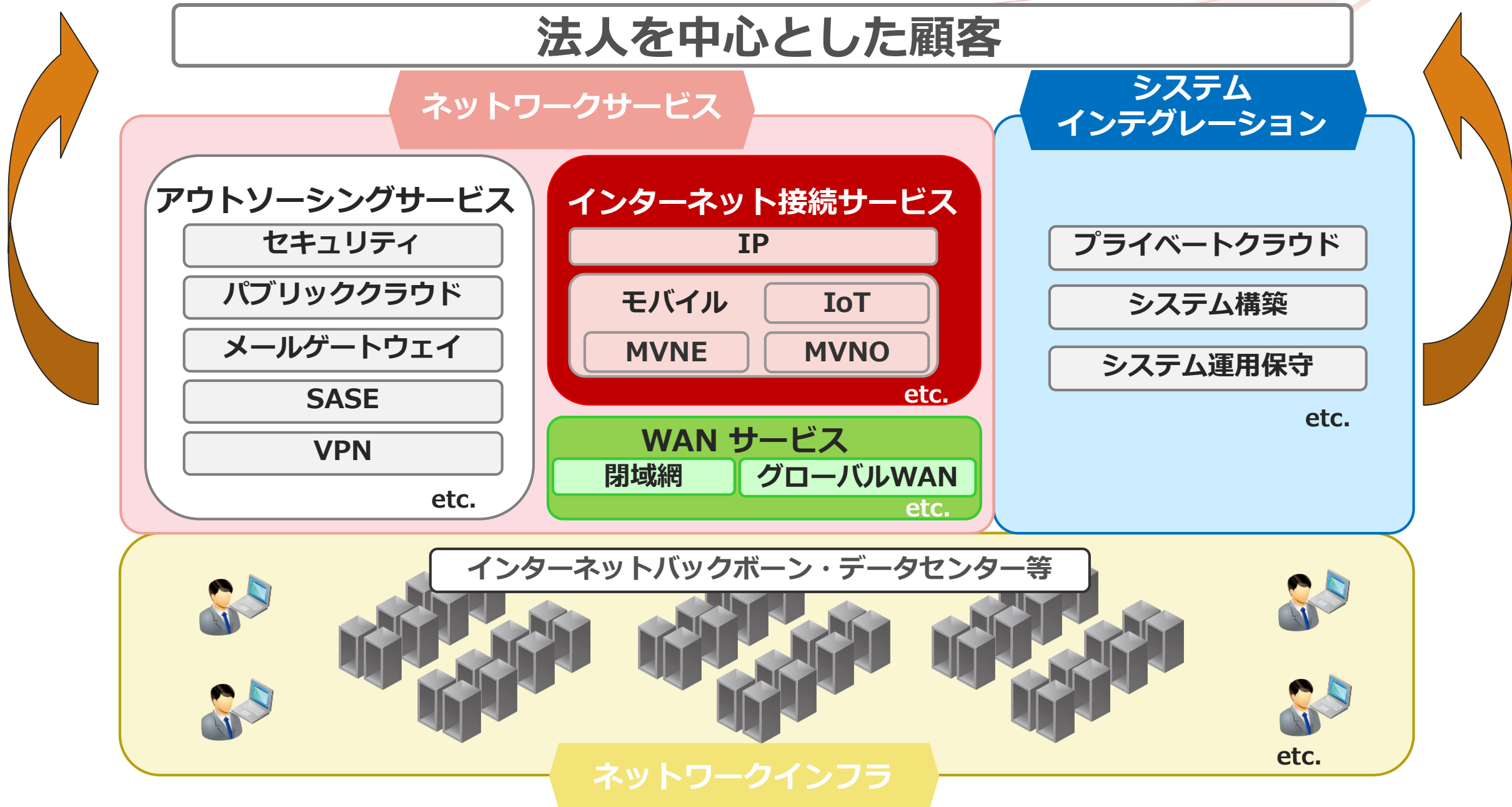
「インターネットイニシアティブ」との社名の通り、100年に一度の技術革新であろうインターネットの世界において、その技術革新をリードし、新たな利用形態を提案する画期的なサービス、プラットフォームの提供を通じて、ネットワーク社会の発展に貢献していく。

- 技術革新によりネットワークインフラストラクチャーを発展させる
- ネットワーク社会を支える仕組み（ITサービス）を提供する
- 自己実現する職場の提供（多様な才能・価値観を有する人材が活躍できる場）

商号	株式会社インターネットイニシアティブ（略称：IIIJ）
創業	1992年12月3日
代表者	代表取締役 会長執行役員 Co-CEO 鈴木 幸一（創業者） 代表取締役 社長執行役員 Co-CEO & COO 勝 栄二郎
連結従業員数	4,803名（約7割が技術者） ※2024年3月末時点
事業内容	インターネット接続サービス、モバイルサービス、アウトソーシングサービス、WANサービス及びシステムインテグレーション構築・運用保守 等

(※1) ISP（インターネットサービスプロバイダー）：インターネットサービス事業者。インターネットへの接続やWebホスティング機能などをサービスとして提供する。

(※2) SI（システムインテグレーション）：顧客の目的に合わせた情報システムの設計、構築、運用などによって提供すること。

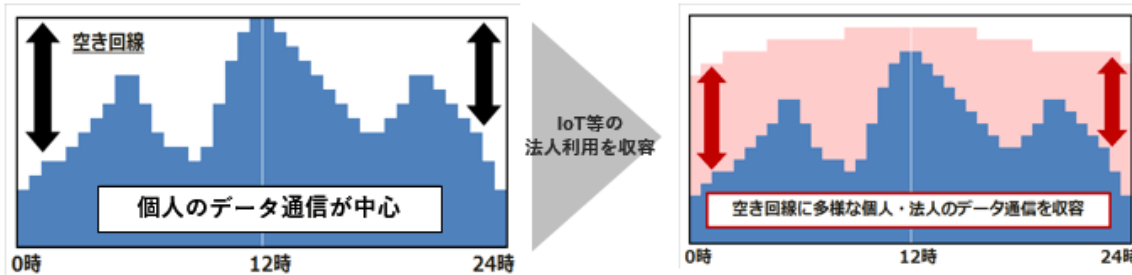


◆ 法人・個人の両輪でモバイル事業を展開

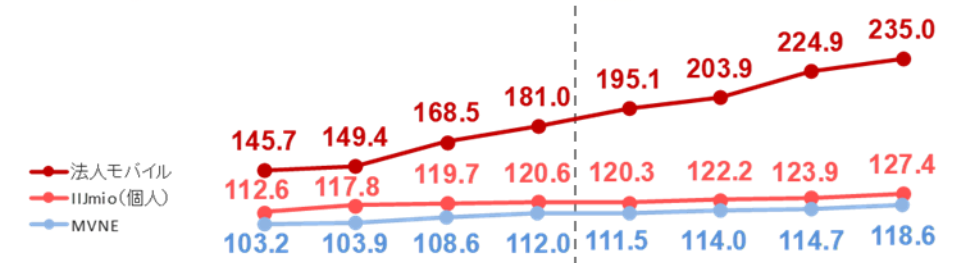
- FY23末総回線数：481.0万回線・FY23総売上高：461.4億円
 - ✓ 法人向けモバイルサービス (IoT用途等) FY23売上:136.3億円 (+21.9% YoY)
 - ✓ MVNE (他MVNOへのプラットフォーム提供) FY23売上:105.5億円 (+4.8% YoY)
 - ✓ IIJmio (個人向け) FY23売上: 219.6億円 (+4.4% YoY)
 - 顧客満足度調査において、3年連続総合満足度第1位を受賞 (株)J.D. パワー ジャパン)
- 法人・個人のトラフィックを共通のモバイルインフラに収容し、インフラ稼働率・収益率向上

法人利用拡大で収益率向上・利益増加を展望

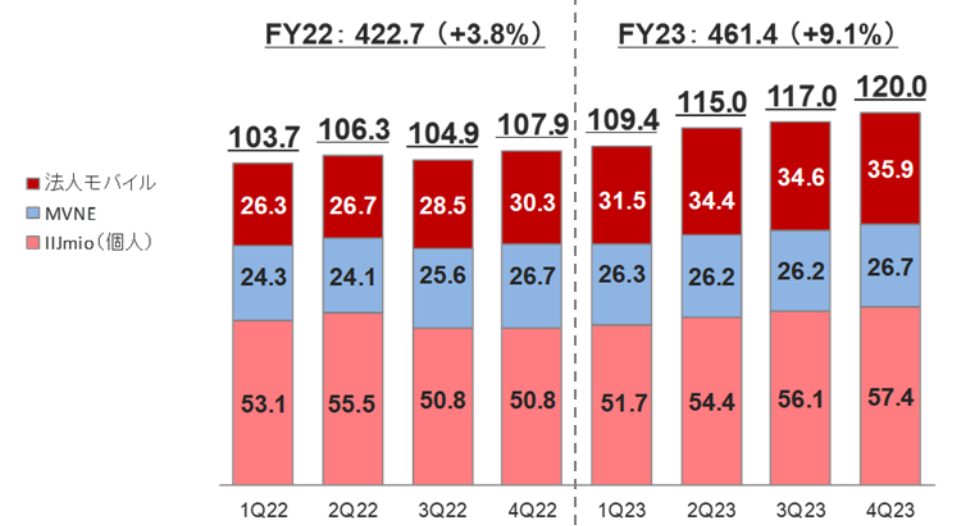
◆ IoT等で増加する法人データ通信を吸収



モバイル回線数の推移 (単位：万回線)



モバイル売上の推移 (単位：億円)



◆ IIJ公共安全モバイルサービス

- 政府が推進する「公共安全モバイルシステム^(※)」に対応し、公共機関専用サービスとして提供するモバイルサービス
- 専用設備で提供し、災害時優先電話、マルチキャリアに対応するため、災害発生時の公共機関において、確実かつ円滑な通信を実現

(※) 公共安全モバイルシステム (旧：公共安全LTE (PS-LTE)) :

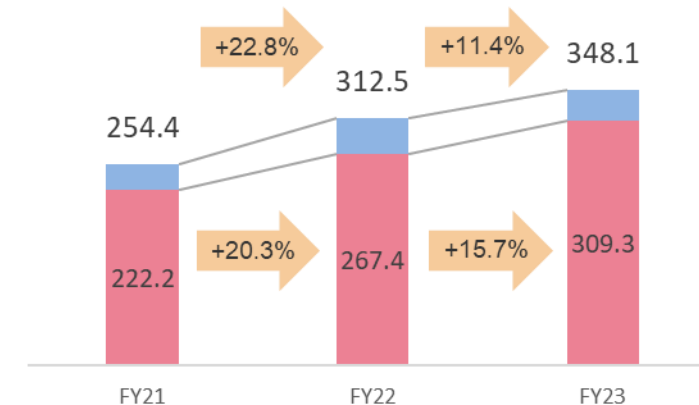
携帯電話 (LTE、5G NSA) 技術を用いた公共安全 (Public Safety) のためのネットワーク。音声に加え、画像や映像などの送受も可能。

商用の携帯電話網、汎用スマートフォン端末を利用でき、異なる機関間での相互接続の技術的ハードルも低い。

◆ 旺盛な需要継続でセキュリティ関連売上大幅伸長

- 総セキュリティ事業規模 (NWサービス+SI) FY23 : 348.1億円 (+11.4% YoY)
 - ✓ サービス提供範囲外のセキュリティ案件は個別SIで対応
- セキュリティサービス売上 FY23 : 309.3億円 (+15.7% YoY)

セキュリティ関連売上



■ セキュリティ関連SI
■ セキュリティサービス

◆ 自社開発を中心としたセキュリティサービス・ソリューションラインアップ



Webセキュリティ運用監視サービス

出典) ITR「ITR MarketView: ゲートウェイ・セキュリティ対策市場 2023」
Webセキュリティ運用監視サービス市場: ベンダー別売上金額推移およびシェア (2021~2023年度予測)

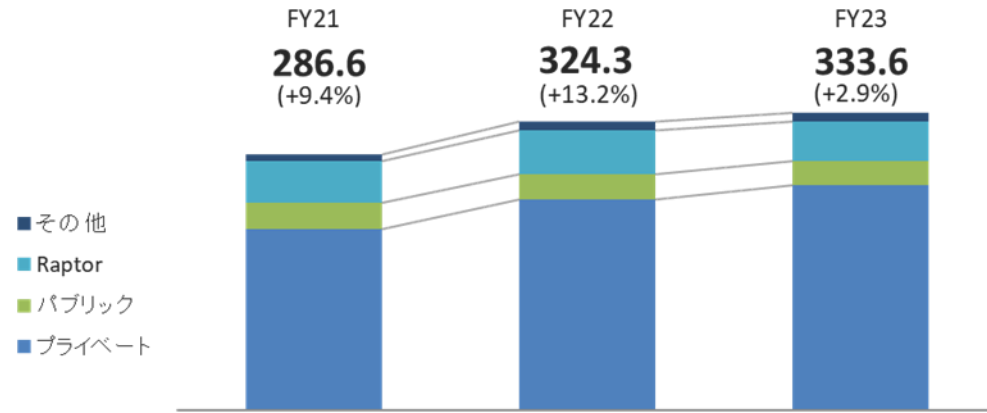


統合メールセキュリティ

出典) ITR「ITR MarketView: サイバー・セキュリティ対策市場 2023」
統合メールセキュリティ市場: ベンダー別売上金額推移およびシェア (2020~2022年度予測)



◆ クラウドサービス売上 (ストック) 推移



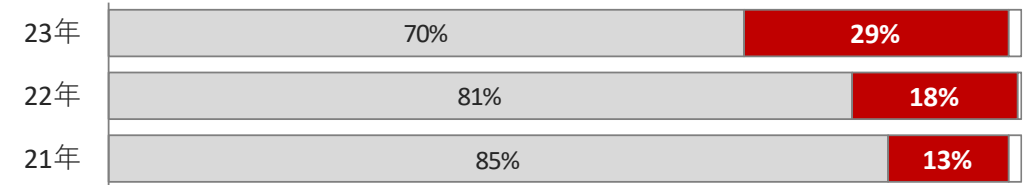
* FY23クラウド売上計上区分：91.9% システム運用保守、8.1% アウトソーシングサービス

◆ 企業システムの大部分は依然としてオンプレで稼働中

◆ IIJはオンプレからクラウドへの移行を支援

サーバーが稼働・配備されている場所について

■ 50%以上がオンプレ ■ 50%以上がクラウド □ 50%以上がその他



出典：当社「全国情シス実態調査 集計レポート」 21年：N = 737、22年：N = 598、23年：N = 214

プライベートクラウド

- IIJ GIOインフラストラクチャーP2 Gen.2
 - ・ オンプレミスからの移行を容易に実現する次世代IaaS (21年10月提供開始)
- IIJ統合運用管理サービス (UOM)
 - ・ マルチクラウドのシステム運用を効率化するSaaS型サービス (17年4月提供開始)
 - ・ クラウドからオンプレミスまで管理・運用対象、自動インシデント管理等で運用業務の効率向上
- マルチクラウド 他

パブリッククラウド

- 完全従量制の低コストサーバ等

Raptor (ラプター)

- 金融機関向け為替取引サービス (10年11月提供開始)
- 国内トップクラスのシェア
- 23年9月より新基盤稼働開始
 - ・ クラウドネイティブな構成で従来比で拡張性・性能・セキュリティ機能が大きく向上

その他

- 海外拠点で提供中のクラウドサービス等

◆ 主に自社サービス設備用として、全国16カ所のデータセンターを運用（うち自社保有2カ所 松江・白井）

	所在地	開設年月	敷地面積	ラック数	PUE (※)	特徴
松江データセンターパーク	島根県松江市	2011年4月	約16,000㎡	約500ラック	1.3	<ul style="list-style-type: none"> 国内初の外気冷却コンテナユニット採用 需要に応じたコンテナ単位での増設可能
白井データセンターキャンパス	千葉県白井市	2019年5月	約40,000㎡	1期棟：約700ラック 2期棟：約1,100ラック	1.4	<ul style="list-style-type: none"> 外気冷却空調方式含む最新の省エネ方式採用 システムモジュール型工法で需要に応じた設備拡張が柔軟かつ安価に可能

※PUE (Power Usage Effectiveness) : データセンター施設全体のエネルギー使用量÷IT機器のエネルギー使用量。
2024年4月時点において、PUE 1.4 以下が業界最高水準とされる。

◆ マイクロデータセンター

- “どのような場所にでも容易に設置可能”で、“運用の手間がかからないマイクロデータセンターを提供したい”というコンセプトで冷蔵庫ほどのサイズにサーバや電源、空調などの機能を備えた小型のデータセンターを開発
- IIJは、Zella DC社とパートナー契約を結び、高機能・高品質なマイクロデータセンターを提供



◆ Preferred Networks・北陸先端科学技術大学院大学と共同で「超高効率AI計算基盤の研究開発」開始 (2023年12月)

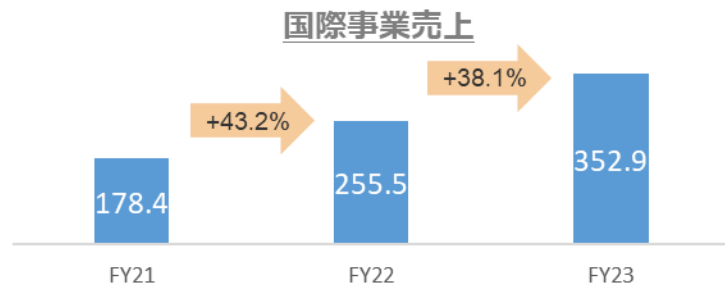
- IIJはAI計算基盤に対応する高密度データセンターの基盤技術に関する研究開発を実施

◆ データセンターにおける技術力を活かし、海外でもデータセンター関連プロジェクト等に参画

国際事業の進展

◆ FY23売上：352.9億円（+38.1% YoY）

- 海外データセンター構築案件、グローバルNW構築案件等を獲得

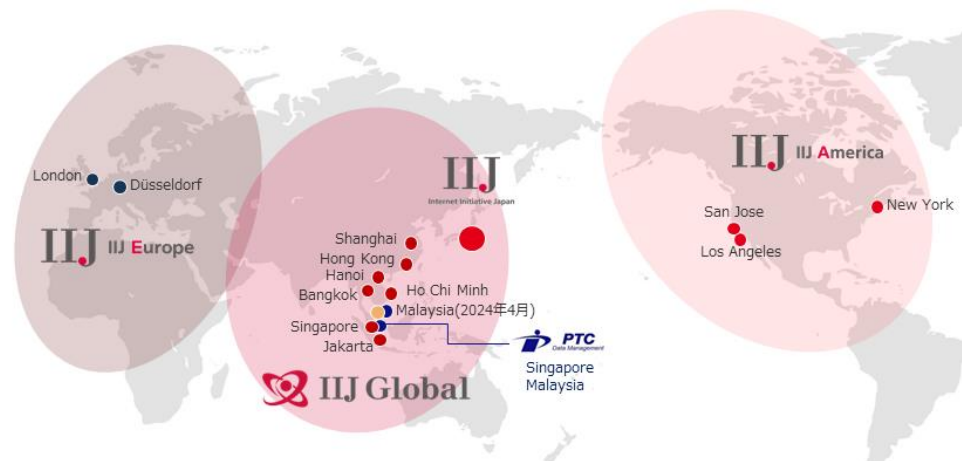


◆ PTC SYSTEMS SDN. BHD. (マレーシア) 子会社化

- 海外顧客向けのITサポートサービスの強化を目的に「IIJ Global Support Center」運営開始 (2024年4月)

◆ 世界9カ国13都市に事業所を設置

- 米国・英国・ドイツ・中国・シンガポール・タイ・インドネシア・ベトナム・マレーシア



大型案件の獲得増加

◆ 「サービスインテグレーション」モデルで大型案件獲得増加

- 月額提供のネットワークサービスをシステムインテグレーションに併せて提供
- 契約期間総額が数十億から百億円超の案件を継続獲得

◆ SI受注好調

- FY23受注額：1,480億円（+22.4% YoY）
 - ✓ 構築：599億円（+35.2% YoY）・運用保守：881億円（+15.0% YoY）
- FY23末時点 受注残高：1,089億円（+31.6% YoY）
 - ✓ 構築：238億円（+72.2% YoY）・運用保守：851億円（+23.5% YoY）

企業のネットワーク・システム領域の変化

社内閉域
ネットワーク

インターネット技術を
融合した複雑で多様なものへ

2. IIJグループの強み

- 2-1. 国内最大規模のインターネットバックボーンと信頼性の高い運用力
- 2-2. 月額ストック売上を中心とした収益構造
- 2-3. 独自のポジションで競争優位性を発揮
- 2-4. 約15,000社の顧客基盤とクロスセル戦略

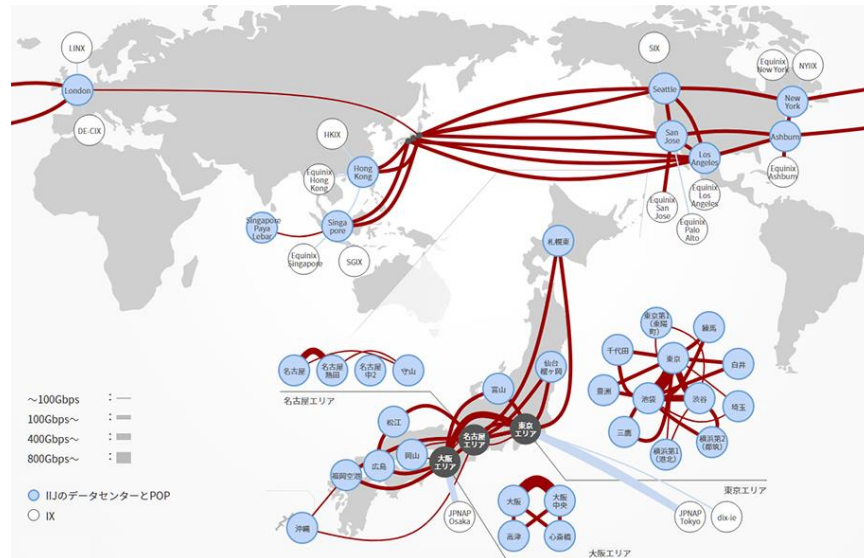
2-1. 国内最大規模のインターネットバックボーンと信頼性の高い運用力

インターネットバックボーン

- ◆ 国内最大規模のインターネットバックボーンを自社で運営
- ◆ 米国・欧州・アジアへ延伸し、現地法人で運営することで、グローバルで高品質なインターネット環境を提供
- ◆ 冗長かつマルチキャリア・マルチベンダーで構成し、大規模災害等の不測の事態が起こった場合においても止まらない高い可用性を実現

運用力

- ◆ 従業員の約7割が技術者
- ◆ 約30年にわたり蓄積されたインターネット運用技術で障害耐性の高いバックボーンを運用



IJネットワーク稼働率

99.9999%

年間停止時間は30秒以下

2-2. 月額ストック売上を中心とした収益構造

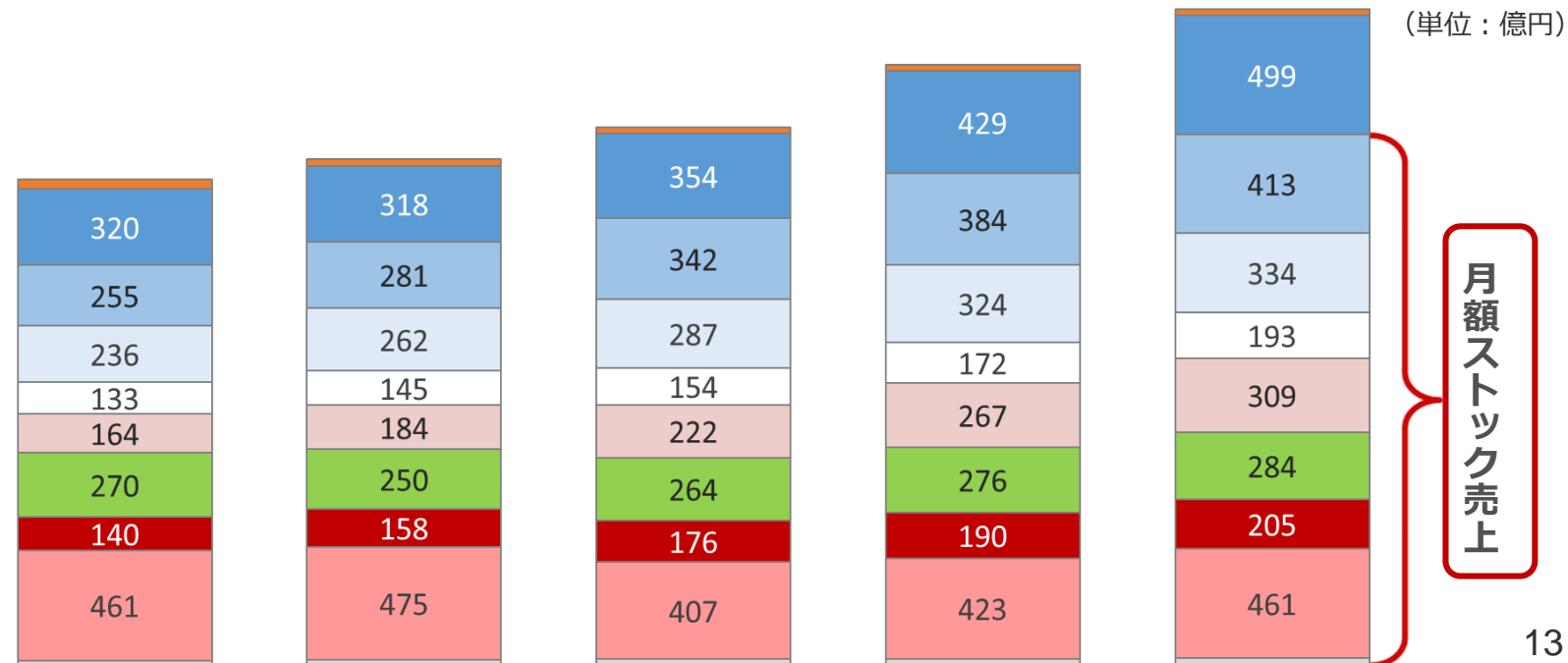
◆ 月額計上されるストック売上が売上高の約8割を占め、堅調に成長

◆ 主要コストの多くは売上増減に直接連動せず、売上増加に伴うスケールメリット発揮で利益継続拡大

- ▶ 主要コスト：インターネットバックボーン等の回線リース料、ネットワーク機器等の減価償却費用・保守費用、技術者人件費（サービス開発・運用）・外注費、データセンター運営費用、モバイルサービス提供のためのモバイルデータ接続料・音声仕入れ

	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23
売上高	2,045億円	2,130億円	2,263億円	2,527億円	2,761億円
増収率	6.3%	4.2%	6.3%	11.7%	9.2%
売上総利益	326億円	403億円	516億円	579億円	639億円
粗利率	15.9%	18.9%	22.8%	22.9%	23.1%

- ATM運営事業
- SI構築
- SI運用保守（除くクラウド）
- クラウドサービス
- アウトソーシングサービス（除くセキュリティ・クラウド）
- セキュリティサービス
- WANサービス
- 法人向けインターネット接続サービス（除くモバイル）
- モバイルサービス
- 個人向けインターネット接続（除くモバイル）



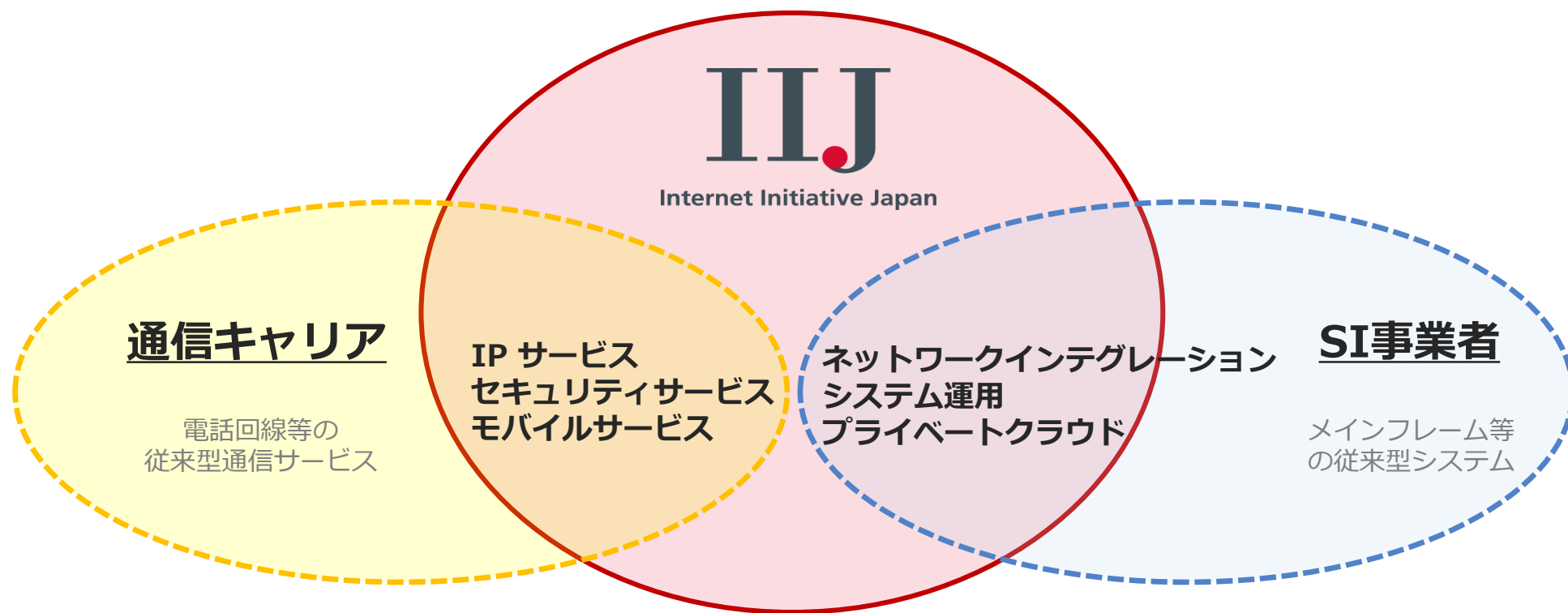
2-3. 独自のポジションで競争優位性を発揮

対通信キャリア：

- 優秀なIP (Internet Protocol) 技術者集団
- 需要を先取りした革新的なサービスの開発・提供
- ネットワークサービスとSIを複合提供

対SI事業者：

- 大規模インターネットバックボーンを自社で構築・運用
- ネットワークサービスアセット・開発能力
- インターネット関連のシステム構築中心



IIJは従来型のレガシーで重厚長大なシステムには関わらず
成長市場のオープンタイプのITシステムに注力

2-4. 約15,000社の顧客基盤とクロスセル戦略

- ◆ 約15,000社の顧客基盤へのサービス・ソリューション提供
- ◆ 創業来の安定インフラ運用、クロスセル戦略等で低い解約率

業界売上上位10社に占める高いシェア



* 業界売上上位10社への浸透率は、業界ごとの連結売上高上位10社（出典：Yahoo!ファイナンス・売上高・全市場・デイリーを基に当社作成）のうち、IIJがサービスを提供している比率であり、FY23 IIJ単体実績を基に当社作成

3. FY23業績総括・前中期計画（FY21～FY23）の振り返り

3-1. FY23連結業績総括

3-2. 前中期計画（FY21～FY23）の振り返り

3-1. FY23連結業績総括

(単位：億円)

**企業ネットワークの進化・更改に対応しサービスインテグレーション提供領域へ事業拡張
システムインテグレーション構築・ネットワークサービス売上一層伸長に向けターニングポイントの年度**

売上高：2,760.8億円 +9.2% 営業利益：290.3億円 +6.6% 当期利益：198.3億円 +5.2% ROE：16.3%

NWサービス

SI

売上

粗利

売上

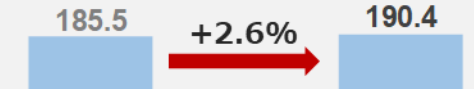
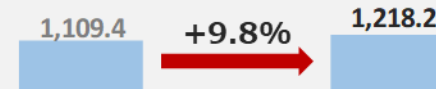
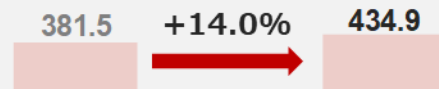
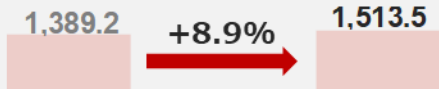
粗利

FY22 FY23

FY22 FY23

FY22 FY23

FY22 FY23



NW
サービス
(除くモバイル)

- ◆ ICT利活用の進展に伴い各サービス売上継続伸長
- ◆ IP・アウトソーシングサービス伸長でスケールメリット享受し粗利継続拡大

モバイル・
IoT

- ◆ IoT用途等の法人モバイル回線数は大幅増加 FY23回線数 法人モバイル：235万 (+29.8% YoY)
- ◆ 個人モバイル (IIJmio 等) ・MVNEともに回線数は堅調に推移 FY23回線数 MVNO：127.4万 (+5.6% YoY) ・MVNE：118.6万(+5.9% YoY)

SI

- ◆ 案件大型・複雑化でリードタイム長期化しFY23計上売上は低水準ながら受注状況は非常に活況
 - ✓ FY23受注額 構築：598.6億円 (+35.2% YoY) ・運用保守：880.9億円 (+15.0% YoY)
 - ✓ FY23未受注残高 構築：237.6億円 (+72.2% YoY) ・運用保守：851.3億円 (+23.5% YoY)

その他

- ◆ 114億円の自社株取得・償却を実施 総還元性向82.4% (2023年5月)
- ◆ 白井データセンターキャンパス2期棟開設 (2023年7月)

3-2. 前中期計画（FY21～FY23）の振り返り

コロナ禍を契機に日本企業のICT利活用進展がようやく始動
 トラフィック・セキュリティ需要継続増加等でNWサービス提供モデルのスケールメリット実現
 NWインフラ・サービスラインアップを継続拡張しつつ利益基盤を確立

売上高	営業利益	人的資本	配当金 (1株当たり、年間)	時価総額
約1.3倍 FY23 2,761億円 FY20 2,130億円 法人月額ストック売上(*) 約1.4倍	約2.0倍 FY23 290億円 FY20 143億円	約1.3倍 FY23末 4,803名 FY20末 3,805名	約2.3倍 FY23 34.36円 FY20 14.875円	約2.2倍 FY23末 5,200億円 FY20末 2,400億円
NWサービス売上	SI売上 (構築・運用保守)	セキュリティ関連サービス売上(*)	モバイル総回線数	国際事業売上(*)
約1.2倍 FY23 1,513億円 FY20 1,268億円	約1.5倍 FY23 1,218億円 FY20 833億円	約1.7倍 FY23 309億円 FY20 184億円	約1.5倍 FY23末 481万回線 FY20末 324万回線	約4.2倍 FY23 353億円 FY20 83億円

その他

- ディーカレットDCP（持分法関連）でデジタル通貨事業の立ち上げに注力（デジタル通貨プラットフォーム第1号案件を2024年7月に開始予定）
- 統合報告ポータル・人的資本等のサステナビリティ関連開示を拡充し、主要ESG格付機関であるMSCIのESG格付「A」定着

* 法人月額ストック売上：NWサービス（除く個人モバイル・MVNE）及びSI運用保守

* セキュリティ関連サービス売上：法人月額ストック売上に含まれる（除くセキュリティ系SI）

* 国際事業売上：SI・NW売上に含まれる

4. 新中期計画（FY24～FY26）及び中長期ビジョンの策定

4-1. 新中期計画「IIJグループ 中期計画 FY2024-FY2026」

4-2. 中長期ビジョン

4-3. FY24業績見通し

4-1. 新中期計画「II」グループ 中期計画 FY2024-FY2026」

FY23事業構造転換を発展し中長期ビジョンに向け規模拡大を加速 インテグレーションで売上牽引・NWサービス運営事業者として利益のスケールメリットを享受

売上	営業利益	当期利益	ROE	人的資本
FY23 2,761億円 約1.4倍 FY26 3,800億円	FY23 290億円 約1.6倍 FY26 460億円	FY23 198億円 約1.5倍 FY26 300億円超	FY23 16.3% +2.7pt FY26 19%	FY23末 4,803名 約1.3倍 FY26末 6,100名 ^{規模}

◆ 新中期計画達成に向けて (2024年5月発表)

➤ 既存・コアビジネス領域の徹底的な強化

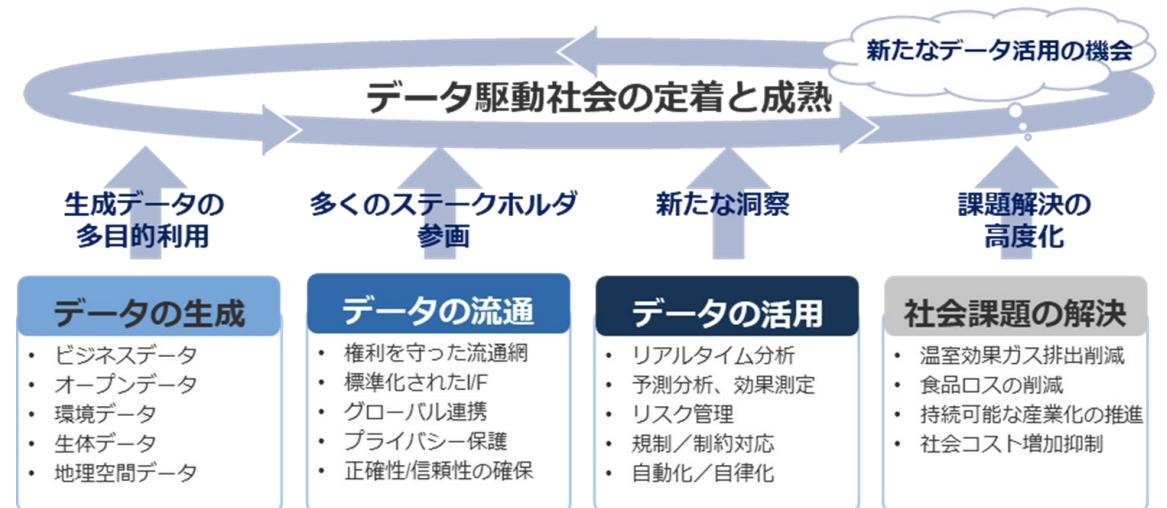
- ✓ サービスインテグレーション戦略による大型ネットワーク構築・運用案件の獲得等でシステムインテグレーションが売上伸長を牽引
- ✓ 法人ストック売上の継続積み上げによるスケールメリットの発揮等でネットワークサービスが利益伸長を牽引

➤ 次の成長に向けた新規領域への取り組み

- ✓ データ駆動型社会実現に向けた事業化
- ✓ デジタル通貨の普及（㈱ディーカレットDCP/持分法対象）等

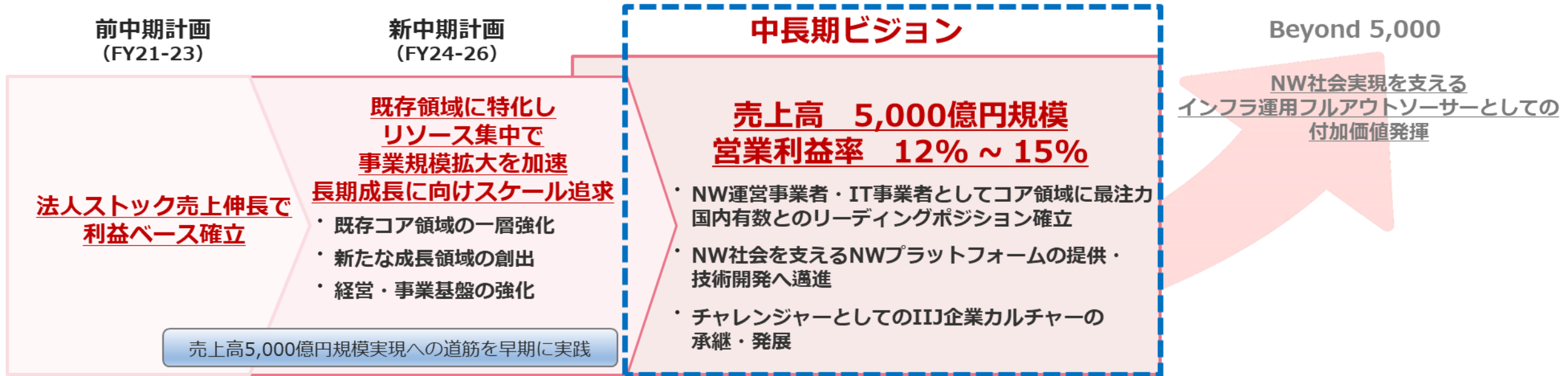
➤ 事業基盤の強化

- ✓ 次世代マネジメント人材の育成
- ✓ インフレ環境等を踏まえた価格の適正化
- ✓ サステナビリティ経営及びガバナンスの強化 等



4-2. 中長期ビジョン

➤ 中長期で目指すべき通過点の姿として、連結売上高5,000億円規模への伸長を含む中長期ビジョンを策定



目標指標 (連結ベース)	FY23実績	FY26目標	
売上高	2,761億円	3,800億円	➤➤➤
営業利益率	10.5%	12%	
配当性向		30%	
時価総額		1兆円	
			5,000億円
			12% ~ 15%
			30% ~ 40%

事業規模拡大に伴い
配当性向を順次向上

4-3. FY24業績見通し

(単位：億円)

	上期	前年同期比	通期	前年同期比
売上収益	1,420～1,430	+10.8%～+11.5%	3,120～3,150	+13.0%～+14.1%
売上総利益	292～302	+0.0%～+3.5%	685～715	+7.3%～+12.0%
営業利益	100～110	△17.2%～△8.9%	300～330	+3.3%～+13.7%
税引前利益	95～105	△24.3%～△16.4%	290～320	+0.2%～+10.6%
当期利益	63～70	△24.3%～△15.9%	199～219	+0.2%～+10.6%

業績見通しのレンジ開示について

- ◆サーバ仮想化ソフトウェア大手のVMware製品の価格体系及びパートナープログラムの改定によりFY24以降ライセンス費用が大幅増加
- ◆当社は価格改定等の対応を進めるものの、対応に要する時間が不確定であるため、業績見通しをレンジにて開示
- ◆レンジの前提は、価格改定等にて原価増加の影響を順調に吸収できる場合をレンジの上限値、想定できる範囲で価格改定等の適用に時間を要する等で費用増加を吸収しきれない場合をレンジの下限値として設定

5. 株主還元について

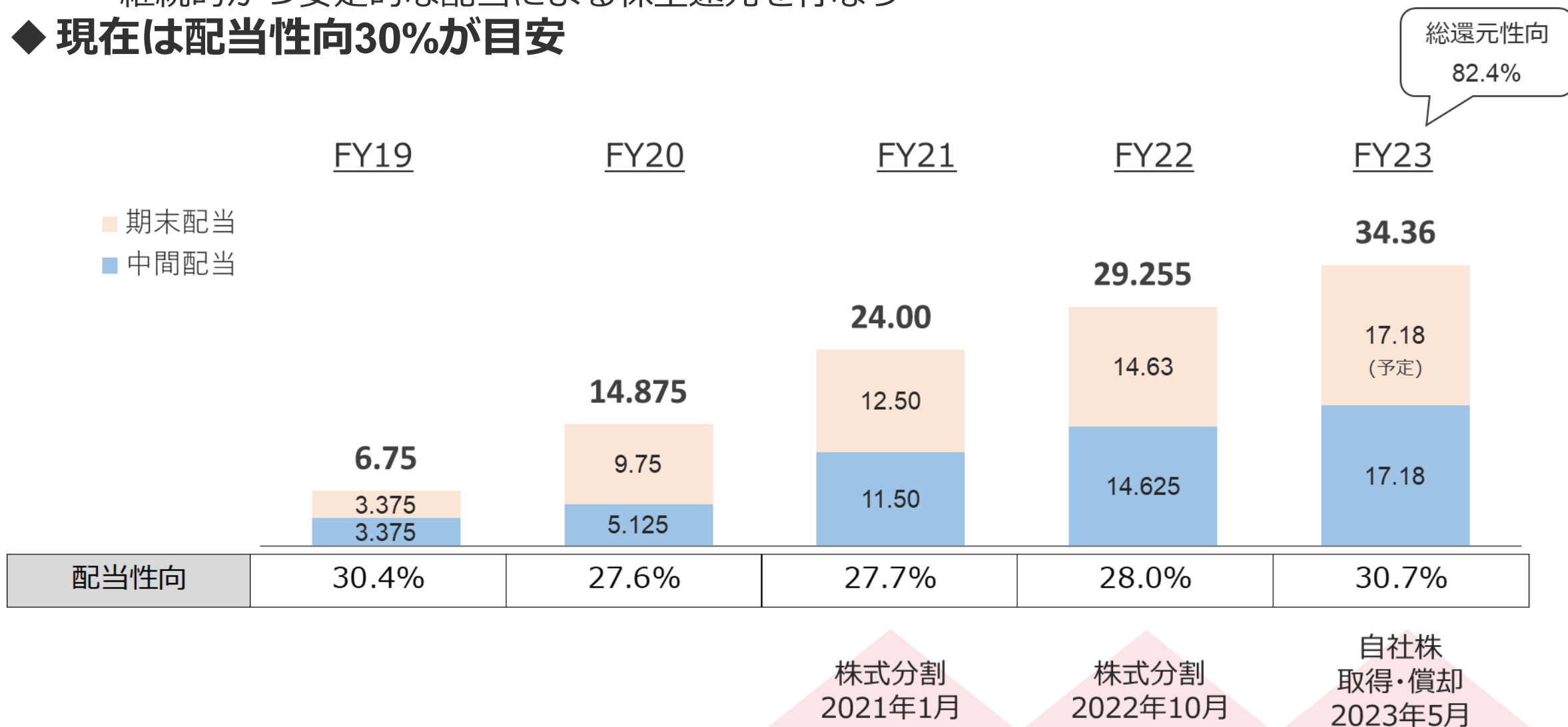
5-1. 株主還元の方針

5-2. 株価推移

◆ 株主還元の基本方針

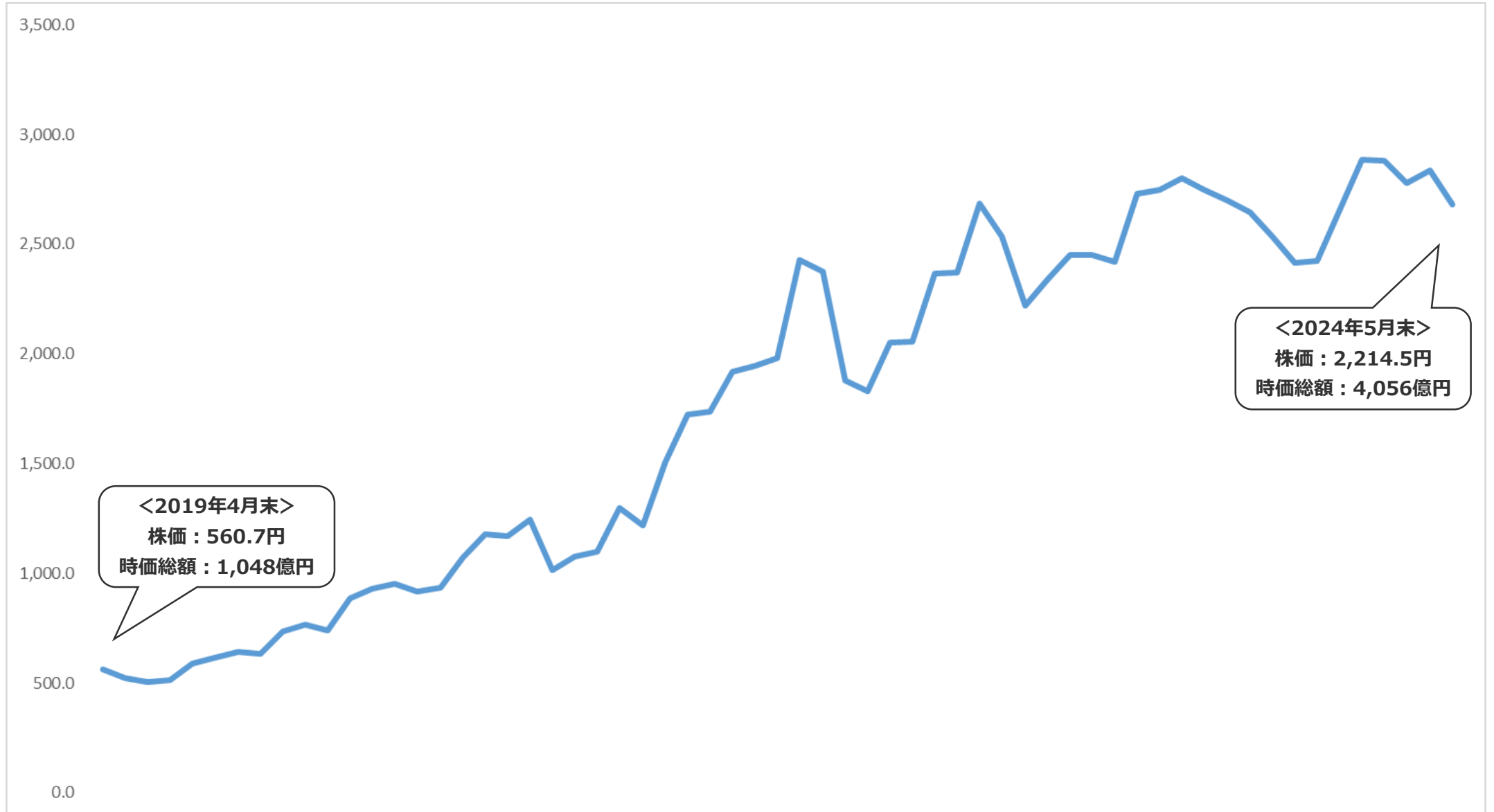
- ✓ 財務体質の強化及び中長期的な事業拡大並びに事業投資等のための内部留保に配慮しつつ、継続的かつ安定的な配当による株主還元を行なう

◆ 現在は配当性向30%が目安



5-2. 株価推移

➤ 継続的な増収増益等を背景に株価・時価総額拡大



ご視聴いただき誠にありがとうございました。

• 株主・投資家様向け情報

弊社の決算説明資料や開示資料のほか、プレスリリースや「よくあるご質問」のコンテンツを充実させております。また、「IRメール配信」にご登録いただくと、弊社から決算情報やIR関連情報をタイムリーにお知らせいたします。是非ご活用ください。

<https://www.iij.ad.jp/ir/>



▶ IRメール配信のご案内

<https://www.iij.ad.jp/ir/ml/>



• 統合報告ポータル

弊社は、株主・投資家をはじめとした様々なステークホルダーの皆様に、弊社グループが事業を通じて社会課題を解決し、持続的に成長する姿をご理解いただくため、2022年6月に「統合報告ポータル」を公開いたしました。財務及び非財務の視点を統合すると共に、中長期的な視点で価値を創造していくにあたって重要な情報を掲載しています。

<https://www.iij.ad.jp/ir/integrated-report/>



事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。



日本のインターネットは1992年、IIJとともに始まりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

本書には、株式会社インターネットイニシアティブに権利の帰属する秘密情報が含まれています。本書の著作権は、当社に帰属し、日本の著作権法及び国際条約により保護されており、著作権者の事前の書面による許諾がなければ、複製・翻案・公衆送信等できません。本書に掲載されている商品名、会社名等は各会社の商号、商標または登録商標です。文中では™、®マークは表示していません。本サービスの仕様、及び本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。